

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271800546		
法人名	医療法人 徳祐会		
事業所名	グループホーム あすなる		
所在地	島根県邑智郡邑南町山田76番地2		
自己評価作成日	平成22年1月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111		
訪問調査日	平成22年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の生活を大切にしながらも、共同生活のよさを生かして、利用者同士の助け合いの場面も多くみられる。協力して作品を仕上げたり、自分の出来ることを手伝ってくださったり、教えあったりされている。職員は利用者一人一人が楽しく穏やかに、その人らしい暮らしが出来る様に、声をかけ寄り添いながら接するように努めています。あすなるの周囲に畑や花壇があり、季節の野菜や果物、花を栽培しています。天気の良い日には、日光浴や草取り、畑の手入れ、収穫など戸外で過ごす時間を楽しんでいます。また、散歩や買い物等気候の良い日には、出かけるようにしています。毎月行っている誕生会や季節の行事には、利用者の希望を取り入れた献立をたて、酒等を準備して楽しんでいただいています。また、地域の行事である「まんぷくまつり」にも今年度も踊りと合奏で参加することが出来ました。中学生の吹奏楽の歌コーナーで飛び入り参加されたり、抹茶をいただいたり、充実した一日を過ごすことが出来たように思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな山間部にあるグループホームで、木造のゆったりとした建物の中に18人の利用者の方が穏やかに暮らしておられる。季節ごとの行事も多く、日々の生活の中では、自分の出来る事を手伝ったりして、皆さんがお元気で生き生きとしておられる。職員達はこの職場を各々が大切にしていって、話し合いもよく出来ている。地域の中にあって、この法人が住民の間で大変重要な役目を担っておられる事を感じる。きめ細やかなケアが出来ている事も、このグループホームの優れている点であるといえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	去年は「ありがたい」をモットーにして職員一同進んできた。今年は「笑顔できくぱり」をモットーに支援をさせていただく。	「笑顔できくぱり」というモットーは実践されており、職員が皆、生き生きと働き、利用者に対してさり気ない気配りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関を掃いていただいているときや日元浴をしているときには通りかかきの方と挨拶をしたり、話しかけられたりしている。地域のお祭り「まんぷく祭り」に踊りで参加している。地域商店街と一緒に買い物にでかけている。	毎日の食材は地域のスーパーより宅配との事だが、足りない物等の買物や美容院の利用等、その他、地域の行事に参加と交流は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、ステージで踊りを発表することで一般の方たちからの認知症に対する理解が明るいイメージに受け止められているように思う。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、行事の報告や取り組みの実際を話している。意見等、代表者とも話し合いながら、サービスの向上に生かせるように努力している。	運営推進会議で提案された事には、すばやく対応しておられる。	グループホームの行事報告等のみに留まらず、出来るだけ意見を抽出し、サービス向上に活かすヒントを得る事を希望します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員の中に包括支援センターの職員(役場職員)がおられるので、意見を聞かせていただいている。また、訪問調査等でこられたときにも情報を共有したり、町の検診にも積極的に受診させていただいている。	運営推進会議への出席の他、町役場での定期的な会合もあり、連携は取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がないように、勉強会を設けたり話し合いをしている。	玄関の施錠、部屋の引き戸、声かけ等いずれも拘束はされていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように勉強会を設けたり、お互いに注意しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会はしている。役場職員に依頼して成年後見人制度を勧めていただき利用に至った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明文書を持参して説明に歩いたり、遠方の方には文書を送り後で電話をかけさせていただいた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できるだけ意見を聞かせていただけるように声をかけさせていただいている。	家族会もあり、そこで出された家族の意見・希望等は、素早く対応されており、運営に反映できるように努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの中で、提案や意見があるときには行ってもらうようにしている。不在のときはノートに記載してもらい検討している。	提案や意見は活発に出されており、所長は法人にもきちんと伝えている。職員にもあまり不満はない様である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の評価を数人でおこなっており、賞与等で反映してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して研修の計画(外部)をしている。法人内では、ケアサポートセンターとともに、月2回ミニ研修を続けている。また、カンファレンスの時間にケアについて話し合いを持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全員ではないが、研修会へ参加する中で、同業者との交流を図ってもらっている。また在宅支援をしているケアサポートセンターとは、勉強会を含め交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ寄り添い話を聞いて不安を取り除くようにしている。行動を特に注意しながら他の利用者様とも打ち解けることができるように声をかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることを伺っている。また今後どうしてほしいか希望も聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談を受けた際に、困ったことを伺うとともに、すぐにできることや、他のサービスの話もしている。通所において、ヘルパーや、ケアマネと同行して顔なじみになれるように勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様同士がお互いに声をかけたり、作業したりするのを一緒にしている。また、通所の利用者さまに積極的に声をかけていただいて安心された例もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、外泊をしていただきながら絆を強めていただいている。また入浴拒否の方が居られるが、家族に入浴を勧めてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2丁目、葬儀に参列されたり、ふれあい大会等の老人会、お寺参りに参加されている。また結婚や出産祝い、お歳暮等を贈っている方もいる。1丁目、以前からの趣味の会「古文書の会」に参加している。面会や外出などで関係が途切れないように支援に努めている。	老人会からのお誘いがあったり、友人がホームを訪問したりと、交流があり、なじみの人間関係が途切れないように、支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で話を持てるようにできるだけ話題を皆さんにふるようにかかわっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	であったときには、声をかけるようにしている。担当のケアマネから、情報を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ意向に沿うように対応しようとしているが難しい場面もあり、カンファレンス時に検討するようにしている。急ぐ場合は、一人で判断せずに数人で考えるようにしている。	利用者の方の思いや意見に耳を傾けており、職員間の連携も良好である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を収集してカルテに残し、閲覧できるようにしている。また、そのつど本人に伺ったことを口頭で伝えることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事の準備や掃除等できるだけ一緒に行っている。できることは、カンファレンスで統一してやってもらう様に話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時家族や本人にも相談はしているが、職員で考えることが多いように思う。	チームとして職員間の連携が良い事が、色々な場面で活かしている。モニタリングはしっかりされており、現状に即した計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報は共有するようにしている。カンファレンスで見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所の方には、休むと言われても、訪問して具合等を聞くようにしている。また、ケアマネからの依頼で、入浴のみを行い、次からの利用につながった事例もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や友人、美容院、商店街等なじみの関係で声をかけてくださったり、送迎サービスや趣味の会に連れて行ってくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	三上医院、富永歯科、前眼科、邑智病院等必要時、往診してもらったり受診の支援をしている。	法人内に医院・病院があり、往診が可能である。受診支援がされているので、利用者の方は安心して過ごしておられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り等で情報を得るようにしている。また、職員が気がついたことは早めに看護師に報告してもらうようにしている。バイタル測定、観察をして、必要時主治医に報告して早めに受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の連携室と連絡を取りながら対応をするようにしている。申し送りをするとともに、サマリーをできるだけ早く製作して送るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の状況等を話しあうようにしている。必要があれば主治医にもかかわってもらい、本人にとってよりよい介護のできる場所を相談させていただいている。	法人全体として取り組みや方針作りを確認できなかった。GHはその中であって、中間点としての役目というスタンスを取っている様に感じられた。	他の施設に移らず、GHでずっと暮らし続けたいという利用者がいた場合はどうするのか。職員間で話し合ってみたらどうでしょうか？また、法人とも方針の確立に向け話し合い、共有される事を薦めます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法を消防署の職員に来ていただき訓練した。急変等（意識消失）がおきた時は、そのつどどうすればいいかを確認するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っている。緊急連絡網を作っている。地震や、水害については避難経路をどうするか話し合っただけである。	年2回の防災訓練が行われているが、備蓄は米のみである。	とりあえず、水の備蓄を検討してみたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ相手の立場を考えて接するようになっている。	プライバシーを損なうような声かけや態度はみられなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ行動を起こす前に、思いを聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを保ちながら、利用者の意向を聞き入れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2丁目好きな美容院に出かけている。化粧品も今までしておられた方はされている。服装も一緒に選んでもらっている。鏡をできるだけ見ていただくようにして、気づいてもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時には、利用者とともに準備配膳している。1丁目肉が嫌いな方には違う食材で対応している。	食事の間はテレビも切られ、皆さんが楽しみながら食事をされている。高齢者向けの優しい食事が提供されていた。職員も同じ者を食べており、準備片づけも職員と一緒にされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士にメニューをお願いしている。1500kcal/日に設定。DM等があったり少食の方には、ご飯やおかずをすくなくしたりする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声をかけて、行ってもらっている。自分の歯がある方には、時々点検をして磨かせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用してトイレ誘導を行っている。日中は、布パンツで様子を見ている方もおられる。	排泄チェック表が食堂に置いてあり、個々の習慣や有する能力を活かした、トイレ誘導がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の効き目を見ながら飲んでいただいたり、寒天ゼリーを食べてもらったりして便が出るように工夫している。体も動かすようにしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に安全のため日中(午後)に入っているが、午前中に入りたいとか、寝る前に入りたい等いわれたときにはできるだけ対応している。	利用者の方の希望に合わせた入浴がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たそうにしておられるとき等には、声をかけて休息していただいたり、夜間眠れないときには、少しそばに付き添って話を聞いたり、添い寝をしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が追加になったときに、そのつど目的等を話し合うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同、個々の作品を準備したり、畑や花壇を整備したりして、役割が持てるように努めている。ゲームや歌体操等を取り入れて楽しい時間を持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族、趣味の会の方、職員でドライブや買い物等の支援をしている。普段いけないようなところは、ご家族にお願いしている。	散歩や買物等、支援されている。行事以外にも個別で行きたい所へ出かけられるように個別支援がなされていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使いたいときには、一緒に買い物に出かけたりしている。お金を持って出かける方も居られる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話等をかけていただいている。きた年賀状に返事を書かれたときに一緒にかかっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある掲示物や花等を飾っている。共同のトイレは時々職員が確認し汚れていれば随時掃除をしている。浴室は冷暖房完備で、気持ちよく入浴していただけるように温度等の配慮している。	玄関・食堂・トイレ・浴室等、いずれも綺麗に掃除しており、不快な音や臭いもない。テレビの前はゆったりと座れるソファがあり、利用者はくつろいでおられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビのあるソファや、畳があるコタツスペース、食堂のスペース等好きなところで、好きな方とゆっくり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置は、(たんすや布団の場所等)在宅の様子を聞きながら、できるだけ似た場所におくようにしている。仏壇や桐のたんす等家で使っているものを持ってきていただいている。	見せて頂いた3名の居室はいずれも、箆笥やこたつがあり、中には仏壇のある方もおられ、家庭的で、本人が居心地よく過ごせるような工夫がしてあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者用の調理台があり、味噌汁の具財等を切っていただいたり、米を研いでいただいている。居室内に洗面所とトイレがあり、自分でできるように場所名を記載したりして工夫している。		